

令和5年度 知床博物館特別展

斜里平野の魅力

ー人と自然による景観形成の歴史ー

特別展通信 Vol.5

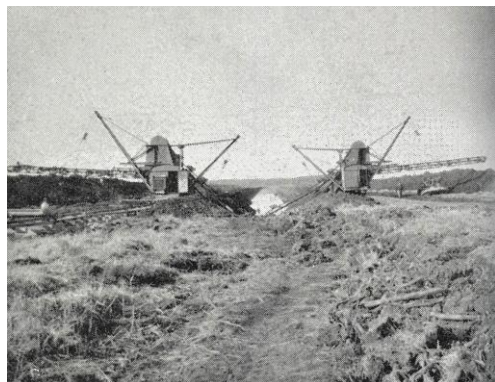
令和5(2023).9.1
斜里町立知床博物館

知床博物館 第42回特別展

と き 9月23日(土)～12月17日(日)

ところ 知床博物館 交流記念館ロビー

博物館では斜里平野の人と自然の営みに注目した特別展を開催します。今回の通信では土地改良の基盤になった農地の排水や客土事業について、さらに斜里平野の魅力を満喫できる場所として脚光を浴びている「天に続く道」について探ります。



「エキスカバー/大型掘削機」によるトーツル沼(宇遠別川)の掘削／昭和20年代後半

16 農地の排水

斜里平野の組織的な土地改良は、大正時代頃からの水田耕作を背景に赤上(朱円)、以久科、斜里などの土功組合を中心に組み込まれました。その後、第二次世界大戦前や戦中の食糧増産体制の下で国や北海道による本格的な排水事業が始まり暗渠排水事業も進められていったのです。

斜里平野の農地には網の目のように排水路がめぐらされています。これらの地上から目に見える排水溝を明渠(めいきょ)、畑の下に埋め込まれた排水路(管)を暗渠(あんきょ)と呼びます。

明渠には幅1m程度のものから、海岸に近い下流部では幅数メートルの大規模な「排水路」まであります。一方で、暗渠は畑の下に埋めら

れているので通常目にすることはありません。畑に細い溝を掘って、初期には雑木を入れた「粗朶(そだ)暗渠」や「板暗渠」が敷設されましたが、昭和20年代以降は土管や塩ビ管が用いられるようになっていきました。

また、近年は暗渠の敷設間隔や深さ、充填材、管の材質や構造などの改良が進められています。



左／暗渠に使われた素焼き土管



右／暗渠を手掘りするための幅の狭いスコップ

特別展 講座案内 講師/村田学芸員

■ギャラリートーク/展示解説/2回とも同じ内容、申込不要

9月24日(日)10:00～10:40

9月30日(土)11:00～11:40

■フィールドウォッチ/魅力地探訪/各回別の場所に車で行きます

9月24日(日)13:00～16:00

9月30日(土)13:00～16:00

*各定員12名で要申込-先着順

**9月24日は産業
まつりのため
無料開館!**

ギャラリートークとフィールドウォッチ
の同日セット参加がおすすめ!

17 客 土

昭和初期の土地改良は低湿地対策として行われていましたが、第二次世界大戦中や戦後には肥料不足下の食糧増産などを目的に実施されていきました。

客土は排水による畑の沈下対策や土壌改良として重要な役割を果たし、斜里平野では昭和26年(1951)から同40年(1965)にかけて海岸砂丘や丘陵地などから冬季に砂や火山灰を運ぶ「馬櫓客土」や、昭和28年(1953)から同32年(1957)には朱円地区の海岸砂丘からの軌道客土が行われていました。



冬の馬櫓客土の様子

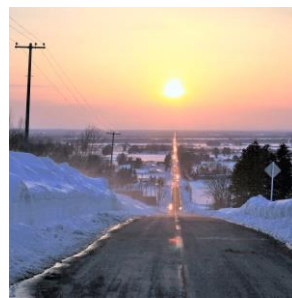
18 「天に続く道」

朱円東から小清水町の倉栄まで斜里平野を貫く28kmの直線道路があります。この道は明治31年の殖民区画時に図上に引かれた道路です。

この道はアッカベツ・斜里原野・上斜里原野・止別原野を貫く共通の「三号道」とされ、斜里原野の区画図では他の号線より広い幅10間で描かれていますので、当初から幹線として利用することを想定していたと思われます。現在この一部は国道244号線と334号線です。

斜里原野の殖民区画は、ほぼ北を軸に号線が引かれているので、春分の日と秋分の日にはこの3号道路の先に太陽が沈みます。ただ厳密には殖民区画の南北の区画線(基線)は当初から磁北より東に2度ずれており(図2)、磁北は時間をかけて移動するため、現在は斜里付近で西に9度偏っています(偏角)。

したがって、太陽が真西に沈む春分の日や秋分の日にはこの道の先に太陽は沈みません。さらに、日没は地平線に太陽が全て隠れて見えなくなってしまう時なので、道路の先で、地平線に沈む直前の太陽(夕陽)を見るには、春分の日より前の3月中旬と、秋分の日より後の9月下旬が適しているのです。



「天に続く道」の夕陽

左は2013年3月17日、右は2013年9月29日



図2 アッカベツ殖民区画図(M33)/
基線に「基線方位北二度東」とあり

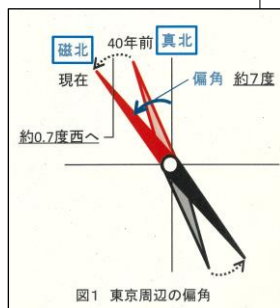


図1 偏角の模式図

偏角(へんかく)とは

地球は磁石の性質をもっているため、方位磁石の北と地図の北(本当の北)はずれており、そのずれの角度を偏角といいます。偏角は場所や時間によって変わり、この50年間の変化は、例えば東京では西へ6度20分から7度40分になり、西へ1度20分ほどずれが大きくなっています(図1)。かつて、伊能忠敬が全国の測量を開始した1800年頃は方位磁石と地図の北はほぼ一致していました。斜里付近の現在の偏角は9度です。

(国土地理院HPに加筆)

知床博物館 特別展通信 Vol 5
文責 学芸員 村田良介
〒099-4113 斜里町本町49番地
TEL 0152-23-1256